専門学校生の修学状況（中退者・休学者）に関する調査【令和３年12月末時点】

- 調査対象 ：**全国の国公私立専門学校**（回答率76.1%）
- 調査時点 ：令和３年12月末時点
- 調査趣旨 ：各専門学校における中退者・休学者の状況について調査

１．中退者の状況（４～12月の状況）

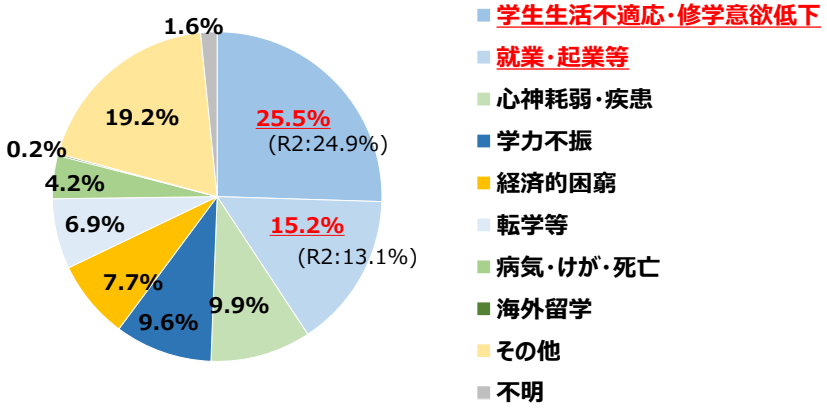
○**中退者数の割合は、令和３年度は令和２年度に比べて、若干増加しているものの、コロナを理由とした中退者数の割合については若干減少しており、実人数では約0.8倍となっている。**

○中退の最も中心的な理由は、**学生生活不適応・修学意欲低下（25.5%）、就業起業等（15.2%）**など。

専門学校	R3年度		R2年度		R元年度	
	4~8月	4~12月	4~8月	4~12月	4~8月	4~12月
中退者数	6,354人 (476人)	15,099人 (911人)	5,684人 (728人)	13,864人 (1,208人)	9,373人	17,997人
生徒数に占める中退者数の割合	1.39% (0.10%)	**3.11% (0.19%)**	1.26% (0.16)	2.82% (0.25%)	1.83%	3.71%

※R3年度(4~8月)、R2年度、R元年度の数値はこれまでの調査結果より引用
※表の括弧内は、そのうち新型コロナウイルス感染症の影響によるものだと回答があった者の数/割合

R3中退者数の内訳



２．休学者の状況（12月末時点の状況）

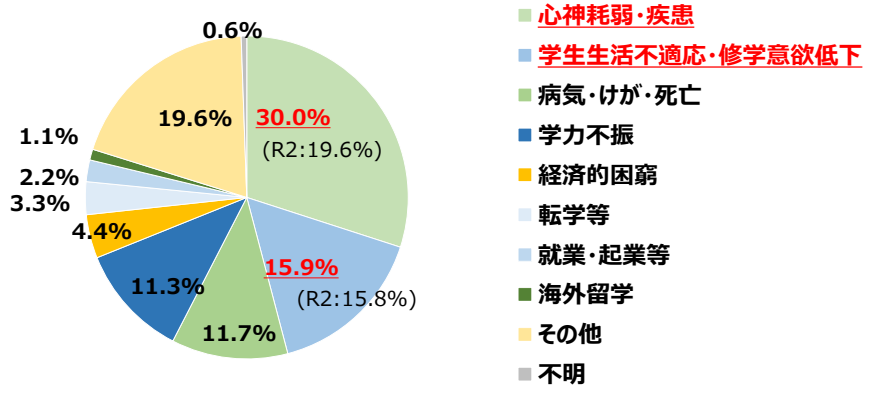
○**休学者数の割合は、令和３年度は令和２年度に比べて、大きな変化はないものの、コロナを理由とした休学者数の割合については減少しており、実人数では約０.5倍となっている。**

○休学の最も中心的な理由は、**心神耗弱・疾患（30.0%）、学生生活不適応・修学意欲低下（15.9%）**など。

専門学校	R3年度		R2年度		R元年度	
	8月末時点	12月末時点	8月末時点	12月末時点	8月末時点	12月末時点
休学者数	3,710人 (392人)	6,260人 (590人)	3,424人 (694人)	6,288人 (1,081人)	-	5,370人
生徒数に占める休学者数の割合	0.81% (0.09%)	**1.29% (0.12%)**	0.76% (0.15%)	1.28% (0.22%)	-	1.11%

※R3年度(4~8月)、R2年度、R元年度の数値はこれまでの調査結果より引用
※表の括弧内は、そのうち新型コロナウイルス感染症の影響によるものだと回答があった者の数/割合

R3休学者数の内訳



0

➡ **引き続き状況を注視するとともに、所轄庁である都道府県等と連携して生徒へのきめ細かな支援を継続して実施。**

<出典 文部科学省 大臣官房総務課広報室>

新型コロナウイルス感染症の影響による専門学校生の学生生活に関する調査（結果）

調査概要

趣旨：新型コロナウイルス感染症による学生生活への影響について実態を把握することにより、今後の国及び専門学校における生徒への支援策の検討に役立てる。
対象：無作為に抽出した学生690名⇒有効回答者：540名（回答率：約78.3%）
方法：専門学校の協力を得て、文科省が作成したWEBサイトより、生徒が直接回答。
期間 ：令和３年３月５日～27日

サンプル特性

○ ①宣言内・外、②公立専門学校・私立専門学校、③生徒規模別（3段階）で層化し、生徒数を比例配分することにより、約69校を一定条件の下で抽出。各学校で、学科や学年が均等になるように、10名程度を抽出し、調査を実施。

○ **概ね、実際の生徒数の比率に応じた割合で抽出**。

（１）2021年１月の緊急事態宣言地域（※）「内」・「外」

※2021年１月８日付（東京、埼玉、千葉、神奈川）及び１月14日付（栃木・岐阜・愛知・京都・大阪・兵庫・福岡）の11都府県

地域「内」	65.4%
地域「外」	34.6%

（２）国公私立大学・高等専門学校の別

公立専門学校	8.9%
私立専門学校	91.1%

※国立専門学校は調査時点で9校であり、うち半数以上は授業料を徴収していないため、当該調査では対象に含んでいない。

（３）学年

学科１年	63.7%
学科２年	26.7%
学科３年	8.0%
学科４年	1.7%

その他、
・男女比も概ね均等（男性43.5%、女性51.5%）。

＜出典 文部科学省 高等教育局 総合教育政策局＞

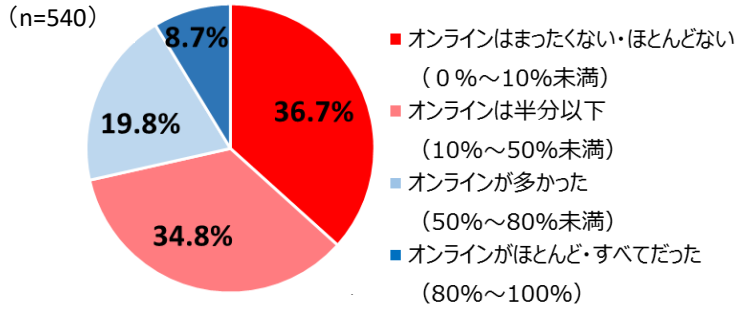
１．オンライン授業について

○　令和２年度後期に履修した授業のうち、**オンライン授業がほとんど又はすべてだったと回答した生徒は、全体の１割未満**で、**多くの専門学校では対面授業が実施されていた**。

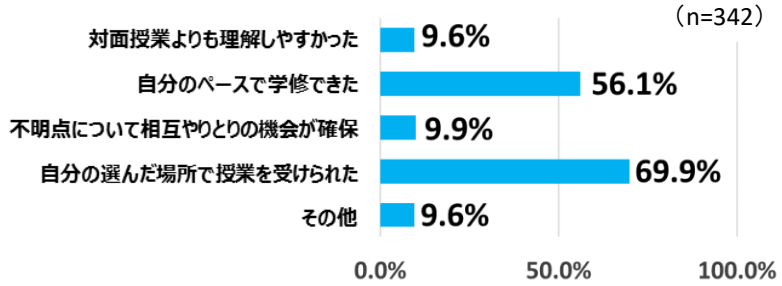
○　**全体的な満足度としては、不満に感じる割合より満足に感じる割合の方が多い**。

○　オンライン授業について、良かった点として、**自分の選んだ場所で授業を受けられたり、自分のペースで学修できる**が多く回答された一方で、悪かった点として、**授業内容について対面授業より理解がしにくい、相互のやり取りがしにくい、友人と受けられない**などが多く回答された。

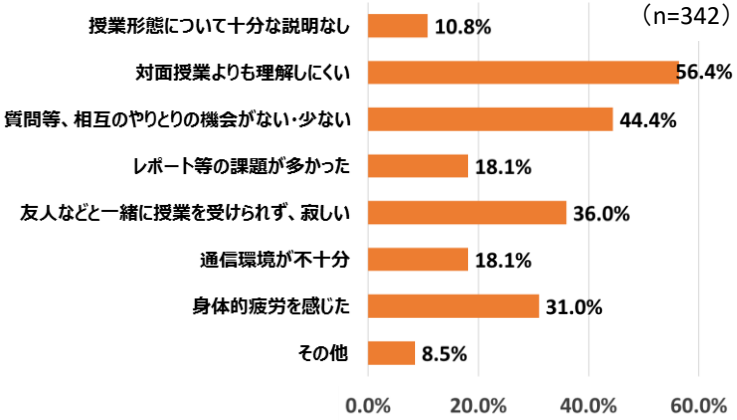
（１）オンライン授業の割合（令和2年度後期）



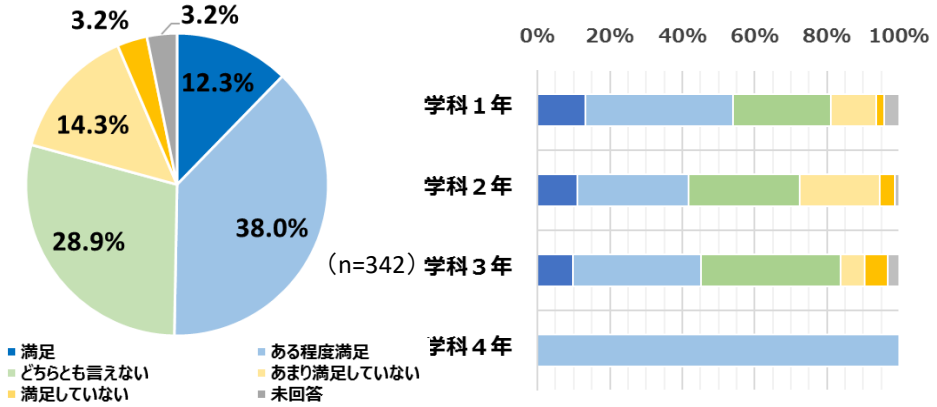
（２）オンライン授業の良かった点　※複数回答



（３）オンライン授業の悪かった点　※複数回答



（４）オンライン授業の満足度（左：全体、右：学年別）



今後とも、授業内容について工夫を凝らしつつ、専門学校においてオンライン教育の質の向上とともに、対面授業を工夫して実施することが重要。

＜出典 文部科学省 高等教育局 総合教育政策局＞

２．経済状況について

○　令和２年度における国や学校などによる支援の利用状況について、**支援を受けていない生徒は、全体の約４割。支援を受けなかった生徒の半数以上が「支援が必要ない」**と回答。一方で、約17%の生徒が、支援策がよく分からない等により、必要だったが申請に至らなかった。

○　令和２年度にアルバイトをしていた生徒は約８割。アルバイト収入は**娯楽・交際費、食費、授業料等に充てている生徒が多い**。

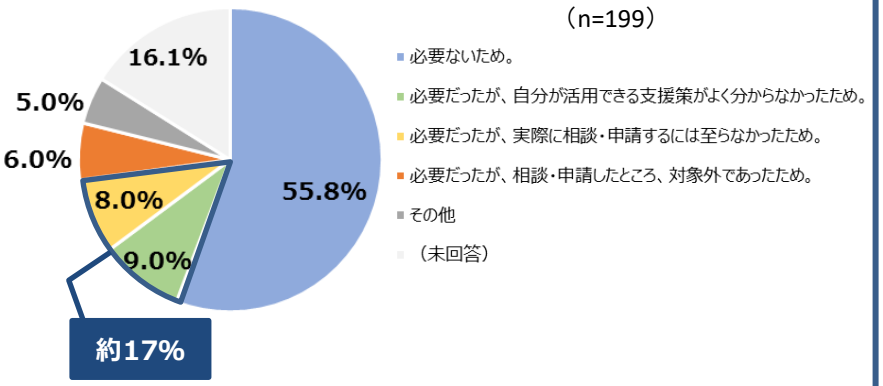
（１）過去１年間に受けた国や学校による支援
※複数回答可

（n=540）

支援策	割合
①高等教育の修学支援新制度（国による給付型奨学金、授業料等減免）	10.6%
②「学びの継続」のための学生支援緊急給付金	9.4%
③日本学生支援機構の貸与型奨学金	39.8%
④学校による独自の授業料等減免（①以外の授業料等減免）	11.5%
⑤ 学校による授業料の納付（支払い）の猶予	2.0%
⑥ 学校による独自の支援（給付金、奨学金、その他物品の支給・貸与 など）	8.5%
⑦ 地方自治体や民間 等 の奨学団体による奨学金	4.8%
⑧ その他	4.6%
⑨ 受けていない（受けたことはない）	36.9%

（２）経済支援を受けていない理由

（n=199）



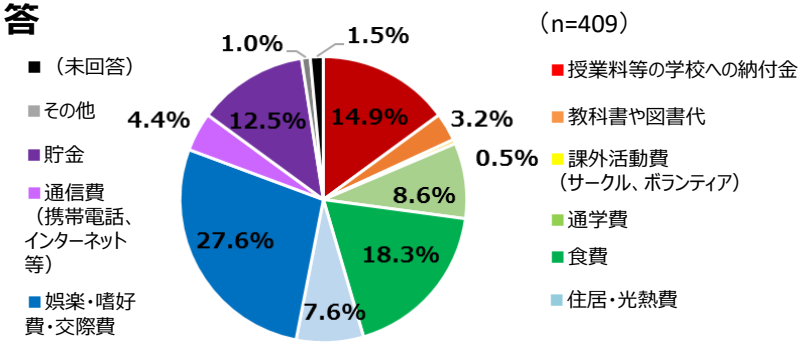
（３）令和2年度にアルバイトをしていたか

（n=540）

回答	割合
はい	75.7%
いいえ	23.7%
未回答	0.6%

（４）アルバイト収入の用途　※主なものを１つ回答

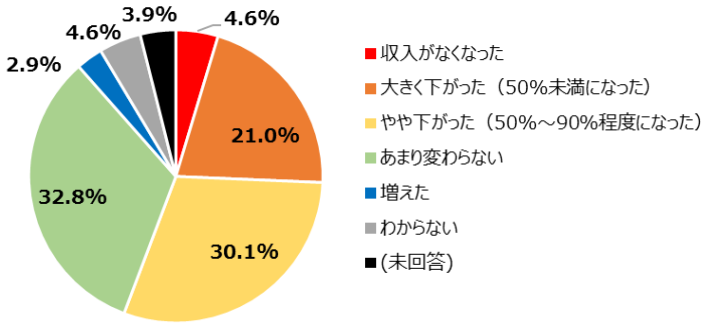
（n=409）



＜出典 文部科学省 高等教育局 総合教育政策局＞

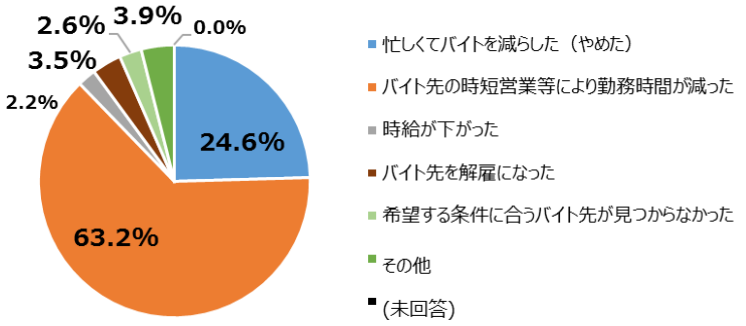
○ **令和３年１～２月（緊急事態宣言発令中）のアルバイト収入が、令和２年10～12月（未発令時）より大きく減少した生徒は約２割。また、減少したうち約６割が、勤務先の営業自粛・時短営業要請の影響**を受けた。

（５）令和3年1~2月のアルバイト状況　（n=409）



（６）アルバイト収入が減少した理由　（n=228）

（減少した生徒が回答）

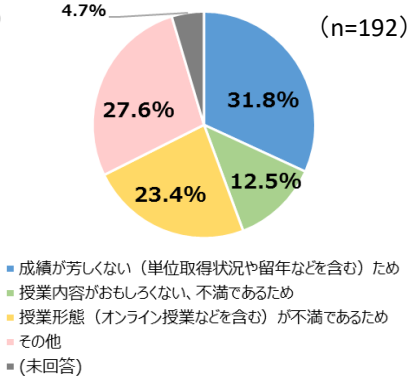


支援が必要ないと回答した生徒も多いが、支援策が十分に理解されない等により支援策を利用しなかった者も一定数存在。緊急事態宣言等に伴うアルバイトのシフト減による収入減ついては、政府の支援策がしっかり活用されるよう、生徒に対する積極的な周知や、生徒に対する相談体制の強化が必要。（例：休業支援金・給付金）

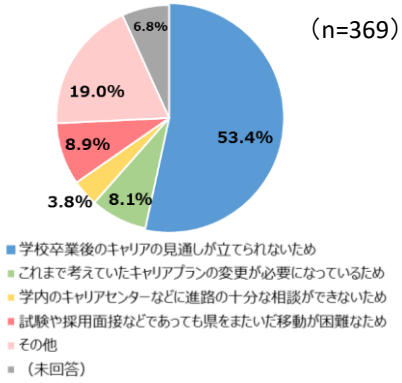
３．悩みについて

○　学生生活における悩みとしては、将来のキャリアに関する悩みが最も多い。

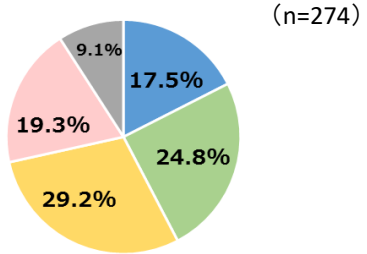
（１）授業等に関すること
⇒悩みを抱える生徒は35.6%（以下はその理由の内訳）　（n=192）



（２）将来のキャリアに関すること
⇒悩みを抱える生徒は68.3%
（以下はその理由の内訳）　（n=369）



（３）経済的な状況に関すること
⇒悩みを抱える生徒は50.7%
（以下はその理由の内訳）　（n=274）

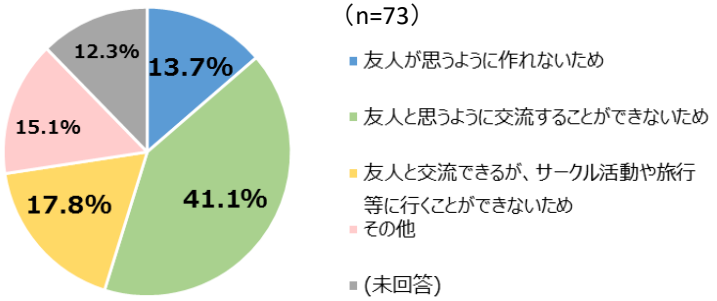


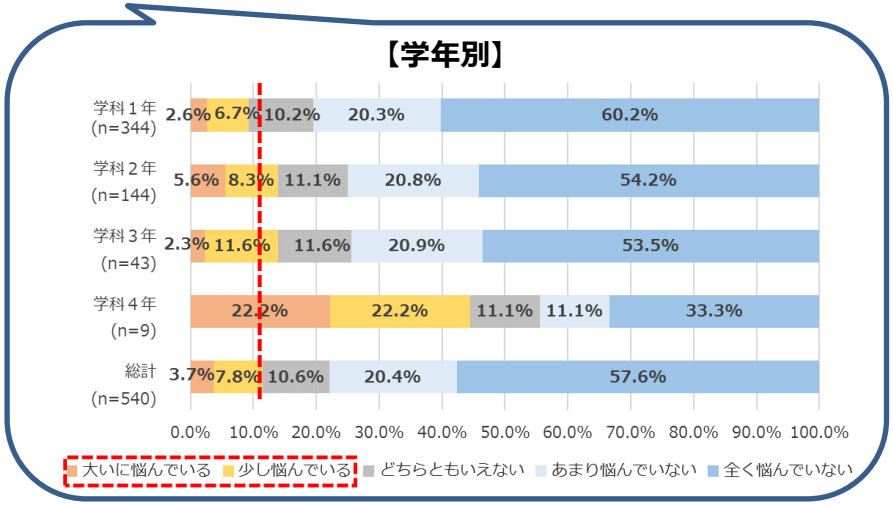
＜出典 文部科学省 高等教育局 総合教育政策局＞

○　学校内の友人関係に関する悩みを抱える生徒は約1割だが、**友人関係の悩みで最も多い理由は、友人と思うように交流することができないため**、となっている。

（４）学校内の友人関係に関すること　⇒悩みを抱える生徒は13.5%

（以下左は、その理由の内訳。）

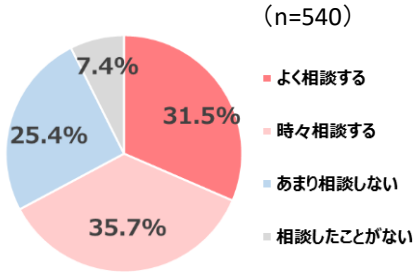




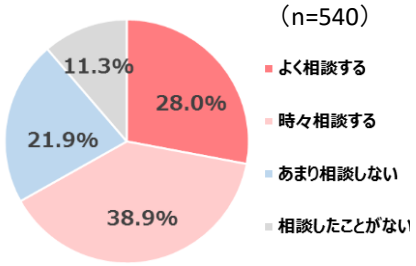
○　生徒の相談先としては、家族や兄弟、友人、同級生等が多く、**学校の教職員や相談窓口へ相談する者も約4割いる**。

（５）悩みを改善・解決するための相談先

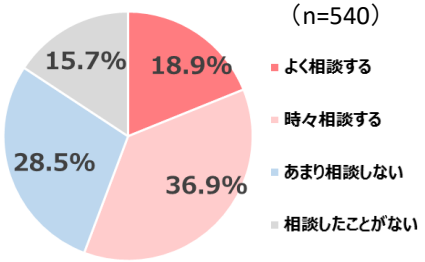
①保護者や兄弟姉妹など
⇒相談する生徒は67.2%



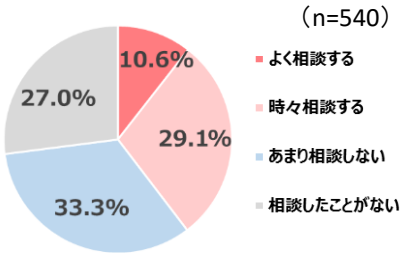
②友人など
⇒相談する生徒は66.9%



③校内の同級生・先輩後輩
⇒相談する生徒は55.7%



④学校の教職員や相談窓口
⇒相談する生徒は39.6%



※「相談する生徒」の数値は、いずれも「よく相談する」及び「時々相談する」と回答した割合の合計

悩みを抱えた生徒が、専門学校の相談窓口を利用しているが、専門学校も身近な立場にあるため、引き続き、相談の実施・相談体制の強化を図ることが必要。

＜出典 文部科学省 高等教育局 総合教育政策局＞

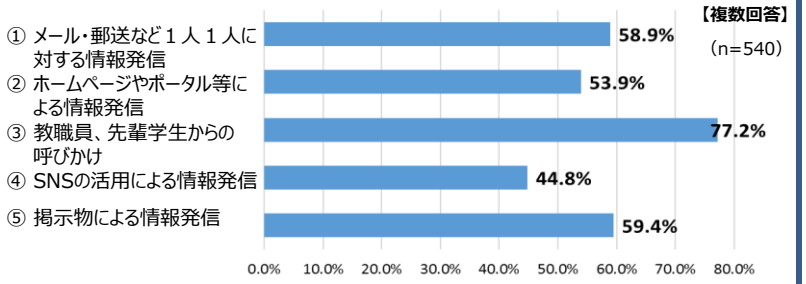
４．情報発信や学校の対応について

○　不安や悩みを抱えた生徒のための情報発信として、自分の学校における情報発信をどの程度目にするかについて、**「見る」又は「時々見る」ものが多いのは、学校の教職員等からの呼びかけや、学校内の掲示物等による情報発信**。また、**実習等の教育面や教職員等によるきめ細かなサポート**に対して**満足している生徒が多かった**。

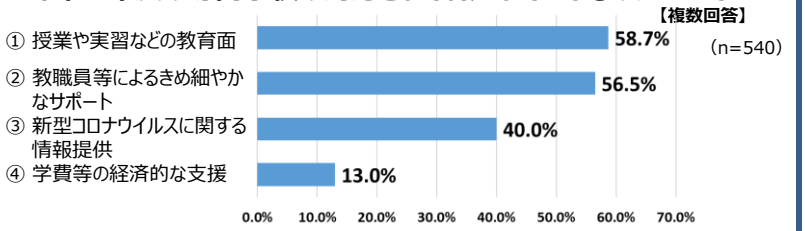
（グラフは、全生徒のうち、それぞれについて「見る」「時々見る」と答えた学生の割合。なお、過去1年間に経済的な支援を受けた生徒に限定した場合でも、概ね同様の割合である。）

専門学校では担任制等による教職員等から直接、生徒への呼びかけが実施されており、引き続き、丁寧な情報発信の継続・強化が重要。

●令和2年度の専門学校における情報発信の方法について



●令和2年度の専門学校の対応として満足しているものについて



５．退学・休学について

（n=540）

退学することを、真剣に考えている	0.4%　（2名）
退学することを、少し考えている	2.2%　（12名）
休学することを、真剣に考えている	0.2%　（1名）
休学することを、少し考えている	0.9%　（5名）
退学及び休学することは、考えていない	96.3%（520名）

○　**退学について、**３月時点で、退学することを考えている生徒数の割合の合計は2.6%であったが、令和2年度中（1年間）に実際に退学した生徒数の、全体に占める割合（実績）は5.53%（※）であり、令和元年度中の割合（実績）が6.69%であったことも踏まえると、**退学者は減少している**。

○　**休学について、**3月時点で、休学することを考えている生徒数の割合の合計は1.1%であったが、令和2年度中（1年間）に実際に休学した生徒数の、全体に占める割合（実績）は1.33%　（※）であった。

（※）「新型コロナウイルス感染症の影響を受けた生徒への支援状況等の調査結果（令和3年3月末時点）

＜出典 文部科学省 高等教育局 総合教育政策局＞

６．国や学校などへの意見・要望

オンライン授業について

（肯定的な意見）

✓ オンライン授業の方が周囲を気にせず受けることができ、集中しやすい。

✓ 「県外だから行きたい学校へ行けない」という距離的な制約が薄れつつある。

（否定的な意見）

✓ 授業は家ではなく学校に行って、先生方に直接教わりたい。

✓ 授業の内容自体理解しにくかった点はあまりないが、友達がどの程度作品などを作り上げているのかコミュニケーションがとりにくかった。

✓ 友達と同じ教室で授業を受けたい。

（授業形態に関する今後の課題等）

✓ 職業実践専門課程なのでテストよりも創作物で判定して欲しい。

例：今回学んだプログラム知識を含んだプログラムを提出。

✓ 気軽に質問できるようになるといい。

✓ 授業とは関係ない事でも質問できるような時間がほしい。

（受講環境に関する課題等）

✓ 機材がない家庭では機材のある家庭より学修分野に打ち込めず遅れていくため、学校で貸し出しなどを行ってくれると助かる。

✓ リモートで学校のPCを使えるような環境の構築をして欲しい。

経済的な支援について

✓ 施設利用が制限されているため、施設利用費を減額してほしい。

✓ 学費が高いが、どのようなことに使用しているかなど詳細を明記して情報発信してほしい。

✓ オンライン授業の価値に見合った授業料を設定する仕組みを設けてほしい。

情報発信について

✓ どのような支援をどうしたら受けられるのかの情報があまりなく、コロナに関する情報も遅い。

その他（交流機会、課外活動、相談窓口等）

✓ 学校での友人関係は、モチベーションを維持するための1つだと思っているので、来年度はもう少しクラスメイトと交流する機会を増やして欲しい。

✓ 学校の楽しみにしていた行事が全て無くなったので開催できる範囲で開催して欲しい。

✓ 進路について悩んでいる時に春休みの間は先生と進路のことをメールで連絡をするのみの為、直接会って話を聞いてほしい。

✓ 精神的なサポートについては、カウンセラーの配置などで改善されてきている。

＜出典 文部科学省 高等教育局 総合教育政策局＞